□□□□

社会人博士経験談パート3：会社の仕事と大学院の両立

大学院や研究科によって修了要件が異なる。

多くの方がご存じの通り、

博士後期課程の修了要件は、大学院や研究科によって全く異なります。

例として、私が修了した大学院と出身大学の博士課程を比較してみます。

〇私が修了した大学院

・研究実施講習への出席（毎年1回）

・査読付き英文雑誌の筆頭論文1報

・博士論文の提出と合格

・中間審査会（D2）と博士論文審査会の合格

〇出身大学の博士課程

・研究実施講習への出席（毎年1回）

・講義10単位（すべてレポート提出）

・研究科主催の論文ゼミ（D1時、月1回）

・国際学会での口頭発表1回

・査読付き英文雑誌の筆頭論文1報

・博士論文の提出と合格

・中間審査会（D1、D2）と博士論文審査会の合格

全く違いますね。

□□□

本当は研究室に行きたいけれども、

我慢して会社で業務をこなすことも増えており、

何とかして研究室へ行く時間を確保しなくてはと感じるようになりました。

そこで、課長や所長へ相談を持ち掛けました。

博士の研究を会社業務の一つとして認めてもらう

前回の記事にも記載しましたが、

私の場合、社会人博士の進学先はもともと共同研究をしていた研究室であり、

博士課程の研究内容もこの共同研究を起点にしたものでした。

しかし会社からは、

「共同研究は会社としての業務」

「社会人博士は個人のスキルアップ」

という形で、それぞれ別の取り組みとして認識されており、

業務中に社会人博士に関する作業はできず、業務外時間で行っていました。

しかし、共同研究の内容と社会人博士の研究テーマは本質的に同じものであり、

社会人博士の研究成果は同時に共同研究の成果として扱ってもよいのでは?

と考えました。

そこで、

□□□

□

□□□